

令和5年度第5回甲賀市社会教育委員の会議 定例会議事録

日時：令和6年（2024）年2月22日（木）

15時00分～17時20分

場所：あいこうか市民ホール練習室3

出席者（委員） 沢井委員長、岡村副委員長、姉川委員、古賀委員、中村委員、西村委員、
土田委員、辻委員、井ノ口委員、坂上委員、石田委員、木村委員、東委員
以上13名

（学校教育課） 西村課長補佐

（事務局） 柚口部長、松下次長、伊東課長、岡崎参事、上村課長補佐、
森地社会教育指導員

傍聴者 なし

委員13名全員出席。甲賀市社会教育委員会議規則第3条2項の規定により過半数を満たし
会議成立。

1. 開会 市民憲章唱和

2. あいさつ

（委員長）

今回は、社会教育委員の任期2年目、その最終定例会となる。6年間同テーマ進めてきた
総括と次年度への引継ぎを行いたい。まずは報告から始める。

（1）県連絡協議会(2/7)の報告

・令和6年度の近畿大会は、9月6日に京都で開催される。人権の分科会で竜王町が
事例発表する。令和7年度は、和歌山で開催されるが、甲賀・湖南で事例を発表する
ことが予定されている。

・令和6年度県社会教育委員研修会は、8月2日に県庁で行われる。

・社会教育委員活動ハンドブック改訂版がファイルと共に令和6年度に配布される。

・各市町の「社会教育委員の会議」の状況を情報交換したが、その取り組み方はバラ
バラである。本市のように、一つのテーマで定例会を開催しているケースは少ない。
本市は回数も多く充実している。

・社会教育委員が冊子を作成している例や同規模の市町で交流会を開いている事例も
ある。

（2）日野町社会教育フォーラム(2/10)の報告

・フォーラムは、令和5年度より始められた。事例発表は、近江八幡の島小の地域学
校協働活動の取り組みと西大路小のPTA活動の取り組み。そして、南必佐小学校区
の公民館の取り組み。

島小…校報紙の裏面が地域学校協働活動の紙面となっている。

西大路小…楽しい PTA 活動を目指す。PTA 総会のあり方を変える。

南必佐小…公民館で通学合宿、子ども塾開催

(3) 3月7日に多賀町フォーラムがあるので参加を。

(事務局より後日案内)

3. 協議事項

*議長を委員長が務める。

(1)地域学校協働活動の推進について

*学校教育課説明

11月16日の研修会「コミュニティ・スクールにかかる学校運営協議会委員研修会ならびに第3回管理職研修会」の状況を報告

<研修会の内容>

滋賀県 CS アドバイザー北島氏を講師として、「コミュニティ・スクールの導入に向けて ~持続可能な『地域とともにある学校』のために~」のテーマで管理職研修会を開催。講義の柱は、①学校の役割と課題について、②コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、③持続可能なコミュニティ・スクールの推進のために大事にしたいこと、④コミュニティ・スクール推進に向けた具体的な取り組み、⑤元気で明るい学校づくり、地域づくり「三方よし」

<グループ討議>

- ・ 口コミで「楽しかった」の声が広がっている。
- ・ 地域の団体とともに地域学校協働本部の会議を予定している。
- ・ 負担軽減のため、会議は昼間に行っている。
- ・ 地域との連携は以前から進んでいる。
- ・ 中学校区で地域学校協働本部を設置しようという動きもある。
- ・ ボランティアの方に入ってもらいやすい環境づくりをする。
- ・ コーディネーターの人選が難しい。
- ・ CS と地域学校協働活動本部との関わりが研修に参加してもよくわからなかった。
- ・ CS3 年目。訂正の手続きほか、書類づくりが大変である。
- ・ CS の会長は、もとの学校評議員。
- ・ 高齢過疎化の中で、CS 設置の余裕はない。学校の役員は同じ人ばかり。
- ・ 設置校。学校長より学校教育目標が示され、承認後、先生からしてほしいことを聞き、できることを出し合っていく。
- ・ 組織のスリム化を図っている中だが、子どもにどんな力をつけさせたいか、目指す子ども像の共有化から始めている。
- ・ 組織は立ち上げたが、1 年目なので新しいことはしていない。
- ・ 30~40 代の人に学校に来てもらえるか。
- ・ 手探り状態からのスタート。目指す子ども像の共有から。
- ・ 学校が支援してほしいことを明らかにしてほしい。
- ・ 各種の団体が関わっているが、CS になったらどう変わるのか。

・小中学校で推進員にあたる人材の奪い合いが起こらないか心配。

質疑応答

(委員)・管理職の先生の理解度が低いと、うまく進まないで、研修で理解を高めたい。

(事務局)・学校によっては、まだまだの学校もあると思う。来年度、社会教育指導員が入って、「伴走支援」を行いたいと考えているのでアドバイスをお願いしたい。

(委員)・「地域」とはどの範囲を指す言葉か。

(事務局)・基本的には、学校区を指す。本テーマにおいては、自治振興会のありようが問題である。

・第3回の定例会で総合政策部からの説明があった。地域との関連性、自治振興会とのコラボが大事との説明があったが、地域の事情に合わせて、その地域が動きやすい形をとっていききたい。

(委員)・社会教育指導員が学校に入っていくとのことだが、社会教育指導員の負担は心配ないのか。

(事務局)・指導員の負担にならないようにしていきたい。コミュニティセンターの維持管理は全て市民センターがする。館管理は、総合政策部の担当。

(司会)・まずは、理解を広げ、深めることをしなければいけない。

(委員)・現在、CSと協働活動の実務は校長がしている。コーディネーターは学校関係者。コーディネーター一人でできる体制づくりをしたい。

・関係スタッフには、団体よりも、個人で繋がっていききたい。

・地域の方が、どれだけこの動きを理解しておられるのか不明。民生委員からの問い合わせもある。

・私の学区では、CSの立ち上げに校長が強い意欲を示している。ただ、地域学校協働活動については、動きがないので、自治振興会には行政から声掛けをしてほしい。

(委員)・今、学校では、職員会議がなくなり、ペーパーを回す方式がとられようとしている。したがって、CSや地域学校協働活動のことを話題にすることがないので、理解が進まない。本テーマで話し合いの場を持ってほしい。社会教育指導員が学校に入られることは望ましい。

(司会)・理解を深めるためには時間が必要。本制度・事業は、学校応援団の役目とまちづくり協議会をつなぐ役目がある。

・働き方改革の弊害も考えたい。削ることと力を入れるところを明らかにしていきたい。先生は、サポーターになにをしてほしいのか、してほしくないのかを明らかにしてほしい。ただ、議論には時間がかかる。

(委員)・小学校に隣接している本園では、小学校との交流が容易である。チャイムで動く小学校を見て、だんだん小学校の様子を学びとっている。小学校には、手間をとってもらっている。

(委員)・民間出の者にとっては、地域と学校の接点がわからないところがある。本テーマに関わっては、学校の事情に詳しい者に審議を任せたいほうがよかったのではないか。

(事務局)・やはり、いろんな経歴を持っておられる多様な方に入っていただくほうがよいと思う。

(委員)・取り組みの進んでいるところに聞きたい。「このような取り組みがよかった」を紹介してほしい。

(委員)・課題はあるが、挨拶運動を例にして紹介する。

・学校評価をCS委員が目を通し、挨拶という課題を知る。→学校だけでなく、自治振興会でも取り組む。→地域でも挨拶運動に取り組む。これは、地域学校協働活動の組織があり、同じテーブルに関係者がついたことで実現した成果例である。

(委員)・高校のCSの委員をしている。学校評価で課題の残る「読書」「挨拶」「朝食」項目、どの校種とも同じ傾向にある。

・来年度から、若者感覚を取り入れるため、大学生や高校生に入ってもらおう計画。

・学校評価は、普段の様子を見ていないので、わからない点が多い。他校(地域)の学校評価も参考にしている。

・交通立番の件で、保護者から「なんで夕方も立ってくれないの」との意見がある。「自分もできる範囲で立つ」こんな空気が生まれてほしい。

(委員)・小学校のボランティアに入っている。私は「ロコミ」で入った。「子どものために」ではなく、「自分のために」でないと長続きはしないと思う。

・「CSや地域学校協働活動」のチラシが全戸配布されたが、住民は「何？」のレベルにある。

・「校長が変われば取り組みもかわってしまう」ではいけない。積み上げを大事にしたい。

(委員)・他校の様子を聞いて、「ボランティアが楽しい」と思えることが1番だと思う。

(委員)・「夢の学習」に関わっている。一般の人が気楽に入れるように、ハードルを下げるようにしてほしい。

(委員)・「夢の学習」に関しては、指導員の問題が大きい。

(委員)・朝の立ち番、どのような人が立っておられるのかわからない。

・道路一杯になって自転車に乗っている状況がある。地域の課題として改善していきたい。自分の地域のことしかわからないので、「たより」などで情報を得ていきたい。

(2)地域学校協働活動にかかる経過と今後の方向

①平成30年度からの経過報告(説明のあった箇所のみ記載)

H30: 9月…社会教育委員の会議のテーマ設定

3月…市総合政策部からまちづくりについての説明 ほか

- R1： 10月…文科省高木氏を講師にして地域学校協働活動のあり方について研修
- R2： 9月…「夢の学習」について研修
3月…提言書「地域学校協働活動を推進するために」提出
- R3： 8月…今年度も同テーマを進めることを決定
12月…本市におけるCS実践校の事例研修
12・1月…教育委員と社会教育委員の意見交換会開催
- R4： 8・10・12月…「地域コミュニティにおける社会教育（公民館）の役割」について審議
3月…「地域学校協働活動を推進するために」総括
- R5： 7・8月…「新しい豊かさの創造に向けた社会教育の振興方針について」の審議
12月…湖南省の「CS/地域学校協働活動の取り組み」を学ぶ。
2月…前年度総括についての対応策をまとめる。

②意見交流

(委員)・令和3・4年度に立ち上げるとのことで審議を始めたが、初めは、CSと地域学校協働活動との関わりがわからない状況であった。課題は何かがわかってきた。

- ・校長の強いリーダーシップがないと立ち上がらないこともわかった。
- ・「地域から学校へ」の事例は多いけれど、「学校から地域へ」の動きが弱い。

③地域学校協働活動を推進するために総括について

(事務局)・令和5年3月、本社会教育委員の会議から提言のあった6項目説明。

1. 地域学校協働本部の立ち上げは、地域任せにするのではなく、市が主体性を持って「伴走支援」を行うことが大事。
2. 本制度・活動について、住民への情報提供や広報活動を積極的に行うことが必要。
3. 推進員の確保・育成・研修が必要。
4. 社会教育スポーツ課、学校教育課はじめ、社会教育指導員と地域マネージャー、それと、市民活動推進課等との連携を強化することが必要。
5. 各地域の協働本部や学校・園・市担当との連絡調整を図る「統括推進員」を設置することが必要。
6. 補助金の扱い等、経理事務は、市の適切な部署で一括して行ってほしい。

(司会)・CSと地域学校協働活動は別物と考えている市町もある。ただ、「活動ありき」ではいけない。地域の行事(情報)を学校へ、学校の行事(情報)を地域への動きが大事。

(委員)・私は、社会教育委員として、「提言・答申」をし、それに基づいて市は「課題への対策」をどう行ったか、との手順がとられるものと思っていた。今回のようなテ

- テーマの場合は、学校の事情に詳しい委員の選考が必要だったのではないかと思う。
- (事務局)・行政が事業を進めるためには、やはり、いろいろな経歴を持つ方にお集まりいただき、多様なご意見をいただくのが大事と考えている。これまでいただいたご意見や提言・答申により、「甲賀市の社会教育振興方針」や次年度予算策定に生かさせていただいた。
- (司会)・校長は地域にどんな方がおられるのか知らない状況がある。自分の立場で、何が提供できるのかを考えたい。
- ・次回は、これまでの論議を深めながら、テーマ策定から話し合っていきたい。
- (事務局)・CSも地域学校協働活動・夢の学習の方向も一定明らかになってきた。テーマというより、進捗管理をしてほしい。

4. その他

- ・多賀町のフォーラムへの参加。
 - ・来年度から「全国社会教育」の冊子が年2回発行されること。
 - ・社会教育委員の任期が委員によって異なるので統一してほしいこと。
- 部長より 「新しい豊かさに向けた社会教育の推進」の実現に向けて尽力したい。
- ・多様な学びの実現に向けて努力したい。
 - ・フリースクール設置（交通費補助）
 - ・日本語初期指導教室（かわせみ教室）設置
 - ・適応指導教室の名称を変更して、教育支援Cに。
 - ・「いじめ問題」。より被害者に寄り添った指導の実現。

5. 閉会あいさつ

- 副委員長より・地域学校協働活動の基盤づくりが進んだことの評価等について